

佐賀市内クリーク網に対する住民意識

佐賀大学理工学部 ○学 白石英樹 正 古賀憲一
同 上 正 荒木宏之 正 井前勝人

1. はじめに

佐賀市及びその周辺地域には、古くから形成された我国でも独特の河川水路網（以後クリーク網と呼ぶ）が存在する。しかし、このクリーク網は住民に親しまれつつも、水質悪化や生活様式の変化に伴い住民のクリーク網離れが生じている。本研究は、住民生活に密着したクリーク網のあり方を考えるための第一歩として市街のクリーク網に対する住民意識についてアンケート調査を行い、整理、検討したものである。

2. 佐賀市の地理及びクリーク網の歴史と住民生活

佐賀市は、筑後川と嘉瀬川による沖積平野である佐賀平野の中心に位置しており、昔から、大雨が降れば洪水・冠水、雨が降らないと水不足等、常に水害か干害に悩まされている地域である。このような地理条件の中、弥生人達は有明海の潮汐により形成された溜め池や江湖を生活の基盤にしてきた。大化の改新後の条里制によりクリークが整備され始め、江戸時代の初期に成富兵庫による綿密な治水・利水計画の一環として現在のクリーク網の原型が確立された。クリーク網は、農漁業はもとより舟運として、生活の場として重要なものであった。しかし、近代化の波は、クリークからの灌漑を人力の水車から電動ポンプへ(1920年代～)、肥料を化学肥料へ変え、戦後(1950年代～)は農機具の機械化や新産業の急発達、陸運の急増による道路整備、蛇口文明の到来、埋設管によるクリーク用排水の暗渠化等により、クリーク離れを助長したと言えよう。市街地は、人口増加のため農地が宅地へ急変、クリーク網は、下水道整備の遅れのため用水路から生活雑排水路へと変貌した。クリークの水質や景観は、下水道普及により改善されている所もあるが、依然として生活雑排水や農業、廃棄物等による問題が残されているところも多い。

3. アンケート調査方法

佐賀市市街地の代表的な5地点において、1地点につき60部(計300部)のアンケート用紙を配布し、郵便返送により回収した。

4. 調査地点概要及び各地点の集計状況

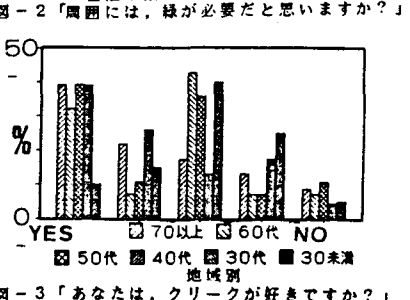
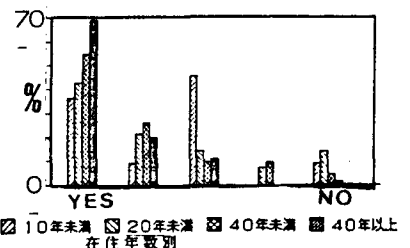
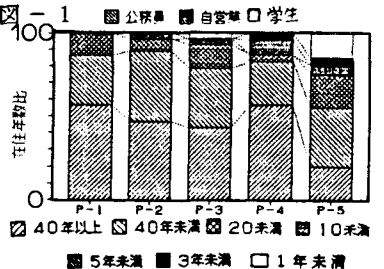
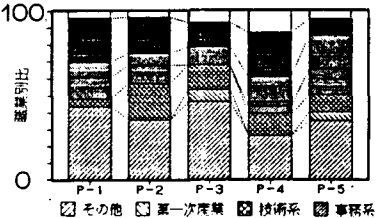
P-1. 松原神社近辺 {回収率38%} …佐賀市の中心的商店街で、神社の周りに松原川を中心としたクリーク網がある。近年、部分的に親水性のある護岸整備が行なわれた。

P-2. 税務署近辺 {回収率47%} …税務署、警察署、裁判所を中心とした公共建造物と古い町並の混在地区で、親水性の乏しい古いコンクリート壁のクリーク網がある。

P-3. 水ヶ江町近辺 {回収率47%} …古い町並と新しい住宅の混在地区で、親水性の乏しいコンクリート壁のクリーク網がある。

P-4. 道祖元町近辺 {回収率38%} …旧長崎街道筋の古い町並で寺社等が多く残っている。清流と旧い石垣による親水性のある護岸のクリーク網がある。近年、学生アパートが増加している。

P-5. 神野公園近辺 {回収率33%} …10～20年前はほとんど田畑だった所が新興住宅街となり、高堤防に護岸整備された天井川(多布施川)が流れている。神野公園や川沿いの散歩道(堤防上)



は計画的に整備され、市内では快適な住宅環境となっている。

5. 考察

分析は、地域別、年齢別及び在住年数別に行い、1986年に行なったアンケート調査内容とも比較した。図-1は回答者の構成である。図-2（緑の必要性）より在住年数別は年数が少ない程YESが少なく、20年未満では中間～NOが多い。図-3（クリークへの好感度）・図-4（親しみ度）より、地域別は新興住宅街で中間～NOが多く、他の地点ではYES～中間が多い。特に図-4での新興住宅街のNOは突出している。これは、図-3の中間～YESの意見が移ったためと思われる。川が高堤防であり在住年数も短い住民は一種の畏怖感を持ち「嫌いではないが親しみはない」という心理状況によるものと考えられる。図-5（クリークへの好感度）・図-6（親しみ度）では高年齢層、在住年数が長い程YESが多く、図-7（関心度）では、40才代と30才代で大きく意見が違っている。この違いは、在住年数別が40年、年齢別が40才を境にYESの多い方とNOの多い方に相反していることから、清いクリークで遊んだ経験の有無によるものと思われる。図-8（水遊びへの期待度）は全体的にNOが多いが、40才以上のNOの方の意見欄に「昔は遊んでいたが、今は汚くてそんな気にならない」等の意見がかなり多く、これらがYESに移ると図-5・6・7と同様になると考えられる。図-9（水の流れ）は全体的にややNOが多いが、1986年のデータ（図-10）と比較すると商店街のみNOが減り、他の地点ではNOが増えている。これは、部分的ではあるが親水性護岸が成功したためと考えられる。このような演出効果の持続性については、今後の課題であろう。税務署・水ヶ江町近辺は共に回答数が一番多く、意見欄にも他の地点より多くの意見（きれいな頃の描写、現況に対する怒りや嘆き、不満の声等）が寄せてあった。図-3～7・11・12から住民（特に40才以上）のクリーク網に対する思い入れは、かなり深いものであると思われ、この思い入れを守ることは、水秩序の伝統性を維持していく上で重要なことと言えよう。

本研究において、貴重な御意見を頂いた住民の皆様に感謝致します。

※参考文献 1) 農業土木史「佐賀平野」編：農業土木学会(1979・5)

2) 佐賀平野の水と土：宮地米蔵・江口辰五郎(1977・6)

3) 佐賀平野における農業水利事業の沿革：九州農政局(1967・2)

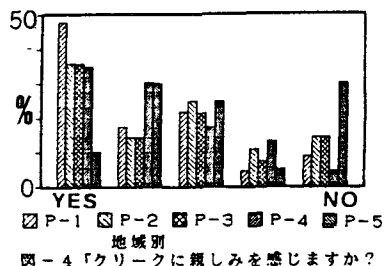


図-4「クリークに親しみを感じますか？」

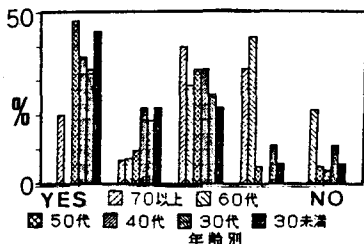


図-5「あなたは、クリークが好きですか？」

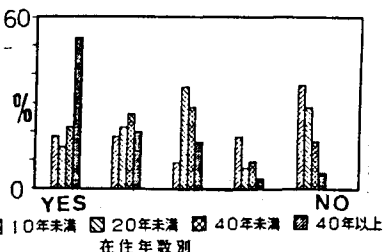


図-6「クリークに親しみを感じますか？」

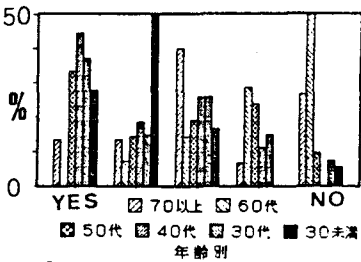


図-7「クリークに対して関心がありますか？」

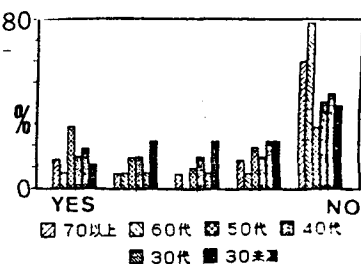


図-8「水遊びをしたいと思いますか？」

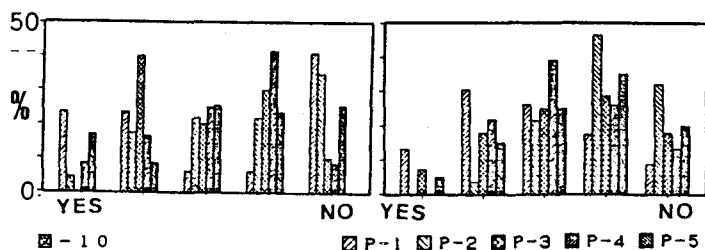


図-10

地域別1986

水は流れていると思いますか？

図-9「クリークの水は流れていると思いますか？」